

JIN-SHA YELL

人間社会学科、略して「ジンシャ」。ジンシャに関わるすべての人にエール（声援）を送ります！
年度最後のジンシャエールは、今年度の卒業生特集です。

@仕事の社会学

紅白出場歌手、「home」の木山裕策さんに学ぶ 仕事と人生の向き合い方

人間社会学科の授業では、講義授業もゼミや社会調査実習においても多彩なゲストスピーカーをお迎えし、学生の皆さんにより深く多面的に学びを深めてもらう機会を用意しています。編訳の担当する講義科目、前期の「産業社会学」ではかつて在籍したTBSの人事の方をお招きし、日本の雇用システムの在り方やその変容を具体的に話してもらっています。後期の「仕事の社会学」では、日本政策金融公庫の代々の多摩センター所長に「起業する」ということについて、課題を出してもらいお話をしてもらいます。また、転職するなど独自のキャリアを切り拓いてこられた方にもいろいろと登壇していただいておりますが、ここ3年は、「home」で有名な歌手の木山裕策さんをお願いしています。2020年度、2021年度はZOOMによるご登壇となりましたが、今年度初めて教室でご講話頂き、その上「home」をはじめ、何曲も歌っていただきました！4人の息子さんのお父さんで、癌の闘病経験もある木山さんが、管理職としての経験や夢に向かう厳しさや素晴らしさを話ってください、そのお話は歌と共に心に沁み、学生たちに一生忘れないだろう勇気と感動を与えてくださいました。（編訳）



優しく歌う木山裕策さん



木山裕策さんと教員・履修生一同

学生の | 活 | 動 | 報 | 告 |

「都民提案」連続採択！

東京都に提言した事業が、都民の投票を経て政策になるという「都民提案」。Vol.29で報告したとおり、昨年度のチャレンジでは3年ゼミの提案が採択されました。そして今年度はなんと、2年ゼミの提案「誰もが使いやすい東京都防災アプリ」が連続採択！提案された684件のうち採択されたのは7件。約100倍の倍率を突破する快挙です。

せっかくの防災アプリも、高齢者や子どもたち、外国人に使いやすいものでなければ、宝の持ち腐れです。多様性を尊重する社会学の学びが、その課題に気づかせてくれました。

昨年度のゼミ生によれば、就職活動の面接で都民提案の話をする、企業の反応がとてもよかったとのこと。社会の問題を発見し、解決策を提起するという経験は、仕事をする上でも役立つと判断されたのでしょう。熊本ゼミではこれからもチャレンジを続けます。目指せ、3年連続！

No.9 **誰もが使いやすい東京都防災アプリ** 防災対策

東京都防災アプリの機能を拡充し、子供や高齢者など、誰もが使いやすいアプリにすることで、災害対応力を向上させる。

東京都防災アプリ

<機能の拡充イメージ>

- ✓ やさしい日本語を使用
- ✓ ふりがな表示
- ✓ 機能やコンテンツの整理

東京都防災アプリの利便性向上

期待される効果

- ・ 子供や高齢者なども気楽にアプリを活用でき、防災情報へのアクセシビリティが向上
- ・ アプリの豊富な防災情報が有効活用され、災害対応力が更に向上

誰もが使いやすい東京都防災アプリ（熊本ゼミ提案事業）

学科からの お知らせ report

人間社会学科オリジナルホームページが新しくなります！

23年度より新カリキュラムがスタートすることをうけて、人間社会学科のホームページも刷新することとなりました。今までのコンテンツに加えて、学科での学びや在校生の活躍、就職状況などもよりわかりやすく、よりみやすいものにしてきますのでご期待ください。正式に稼働し始めましたら、またニュースレターなどでURLやQRコードをお知らせします。新しいページが公開されるまでは下記のQRコードから現行のページにアクセスください。



2022年度卒業研究報告会



【総合司会】下平 好博 教授



熊本 博之 学科主任

3年ぶりに卒業研究報告会を開催して

百年に一度といわれるコロナ禍のなかでこの2年やむなく中止せざるを得なかった恒例の卒業研究報告会が、2023年1月17日(火)、ようやく再開にこぎつけた。

各ゼミから選出された8名の卒業研究報告はどれも力作ばかりで、会場となったアカデミーホールに集った100名を超える学生諸君はもちろんのこと、卒論指導にあたった教員からも沢山の質問が出て、会場は大いに盛り上がった。

毎回思うことだが、人間社会学科の卒業研究は、「民族差別問題」から「職人の世界」、はたまた「語らぬ原体験」に至るまで、実にそのテーマが多様である。しかしそこに共通するのは、それぞれの人生経験に裏打ちされた社会問題への深い関心である、と私は考える。80名近い卒業生の一人ひとりが社会人になってからも引き続き、このような社会への関心を忘れずに自分の人生を切り拓いてほしい、と切に願う次第である。（下平）



研究発表者



4年 王仕驊(おうしか)

留学生として人間社会学科で良い四年間を過ごしました。この学科が一番魅力を感じたところは、自分に興味があることを自由に研究することができることです。特に人は英語が必修ではないので、好きな韓国語を最後まで無事に取りました。コロナ禍で2年間ほどオンラインの授業を受けましたが、通学時間を省いて授業前後の予習と復習として利用して、授業中により深く内容を理解できました。

一年生では「自立と体験」を履修し、普段接したことがない様々な学部の人たちと数多くのグループワークをやり、いろんな貴重な経験をいただきました。二年次からは少人数のゼミで、まず、日本の雇用システムについて学び、それをきっかけに中国との違いに気が付きました。日中の雇用システムと就活の違いを卒論にまとめ、中国では専

門分野を学ばないと困難なIT関係の就職を日本で果たすことができました。自分は人見知りのタイプなので、なかなか自分から挨拶することが少なかったのですが、ゼミナールの皆さんはすごく優しく、時々日本語の使い方を間違ったり、本意を伝えにくい時には丁寧に教えてもらいます。三年次では「社会調査実習」を履修し、先生から紹介された日本で難民認定を申請中のフィリピン人にインタビューして、世界の多様性と残酷さが勉強になりました。

私にとって、日本に来て明星大学に入り、四年の大学生活は人生の宝物です。ここでいい先生と出会い、仲良しの日本人の友だちができてすごく嬉しいです。これから社会人になっても大学で学んだ知識を活かして、良い生活を送るように頑張っていきたいです。



卒論口頭試問を終えて@鶴沢ゼミ



2人はきょうだい?!
右が筆者、左はゼミの友人小林勇太さん

鶴沢ゼミ

人生の宝物
— 明星大学人間社会学科での4年間

寺田ゼミ

どうにもならない状況を、
夢をかなえる糧に

4年 村川 祐月

大学2年生の時にコロナが流行し始め、大学の授業は全てオンライン、行動制限によって外出の自粛や友達と会うことが許されない状況となり、それは思い描いていた大学生活とは程遠いものでした。大学の思い出といえば、家で一人授業を受けたことでした。

ただ、それはマイナスなことばかりではありませんでした。通学時間が省かれ、自由に使える時間が増えたことも事実です。野球の練習時間が以前よりも多く取れるようになり、また試合やチームでの練習が再開されたときにレベルアップしている自分をイメージしながら折れずに練習に取り組みました。

毎日、体幹トレーニングやランニング、アジリティを行い、ボールの感覚を忘れないように常に硬式ボールを持ちあるく、実際にボールを持って練習が出来ない分、丁寧に実際に投げることをイメージしながらシャドーピッチングに打ち込むなどの工夫をしました。おかげでチームの

練習が再開すると、明らかにフィジカルが強くなっていることを実感しましたし、球速もアップしていました。

その甲斐あって、私は読売ジャイアンツ女子チームへの入団が決まりました。思い描いていたようなキャンパスライフは送れなかったけれど、大学卒業後も大好きな野球を続けられることがとてもうれしいです。自分の力ではどうにもならない状況や環境の中でも、目線を変えればプラスにできるということが学べた大学4年間でした。



試合中のひとこま



力強い投球フォーム

4年 野崎 翔吾

大きな目標の存在が自分にとって、どれほど重要なものであるかを大学生活で実感した。

大学生活では、趣味や遊びなどに費やせる時間が多すぎて、大きな目標を持って生活していた高校生までのような、心から楽しんでいる感覚を、趣味や遊びに持てなかった。

なんとなく大学生活を過ごし、就職を考える時期になったが、就活を行い会社員になるという考えは1ミリもなかった。大きな目標を持てることや、自分の性格、得意なことを生かせる職業に就こうと考え、見つけたのが「農業」だった。すぐにネットで自分に合いそうな農家を見つけて連絡を取り、農業を体験し、話を聞いた。農業は、高齢化や耕作放棄地の増加など多くの問題を抱えている産業だった。一方で、未発展な産業のためこれからの進化が楽しみという声や、高齢の農家の方から自分の努力がそのま

ま作物に現れると聞いたことなど、自分の求めていたことに「農業」は、ピッタリだった。「20代で年商1億円以上のフルーツ農家」「農業界の発展」を目標に設定し、刺激ある毎日できるように生活していきたい。

後輩たちには、大学卒業後には、様々な道があることを頭に入れ、自分の進むべき道を考えてほしい。



京都での九条ネギ収穫作業

元治ゼミ

大きな目標

竹峰ゼミ

苦楽を友にした4年間

4年 渡辺 夏菜、日景 愛子

私たちは大学4年間、学科やサークルで同じ時間を過ごしてきました。

サークルではバドミントンサークルと野球サークルに所属しました。大学2年生から、コロナウイルスによって思い描いたサークル活動が出来なくなってしまったため、苦悩しながらのサークル活動になりました。コロナ禍ではオンラインでの新入生勧誘などのできることを模索していきましたが、結果的にバドミントンサークルは畳むという決断に至りました。しかし、かけがえない友人達と出会うことが出来たと思っています。

ゼミでは二人とも同じ竹峰ゼミに所属することになりました。3年間のゼミの中で渡辺は動物売買の問題から多文化共生のこと、日景は地方問題から子どもの権利のことに変化をし、多くの問題に関心を持ちながら学んできました。フィールドワークを大切にしているゼミなので、夜間中学や「カフィン移住者センター」、子ども食堂、子ども

劇場など様々な場所に足を運びました。現場の生の声を聴くことをつうじて視野を広げながら、対象の社会問題を見つめる大切さを学べました。

4月からお互い社会人になりますが、大学で得た行動力を活かしていきます。そして大学時代に得たつながりをこれからも大切にしていきます。



サークルで
星友会に出店
中央：渡辺夏菜
右：日景愛子



卒論報告会を終えて ゼミの仲間とともに



野球サークルの仲間とともに



フィリピン出身者のコミュニティを訪ねて

天野ゼミ

4年間
試行錯誤しながら
自分の思いを貫いた

4年 谷井 一郎



渾身の投球フォーム

学生時代頑張ったことは、部活動です。大学在学時にプロ野球選手になるという目標があり、惜しくもプロ野球選手にはなれませんでした。プロ野球4球団から調査書をいただいたのが私の励みとなりました。その中でも大学一年時から自身の目標を設定しそこに到達するためには何が必要かを常に考え練習してきました。自分に現状何が足りないかを整理し自身の求められているところについて把握をしその足りないものを補うための努力や、自身の長所をどのようにして伸ばすかというのを繰り返し行ってきました。その結果、プロ注目選手となりプロ野球球団4球団から調査書を頂けるほどに成長することができました。自分自身が決めた目標に対してモチベーションを失いかけたことや、気持ちが乗り切らない時もありましたが自分自身で修正を行い4年間高いモチベーションをキープすることができました。